

(法第 28 条第 1 項関係)

2012年度事業報告書

特定非営利活動法人兵庫障害者センター

1 事業の成果

日常でかけることが困難な障害者とその家族は、福祉や医療、生活について多くの情報を必要とし、安心して生活するために相談できる場所を探しています。兵庫障害者センターが活動の開始より相談活動を継続して行っていることが、障害をもつ多くの人たちの支えとなっています。障害者と家族のために毎月第 2 土曜日に定例相談日を設定し、社会保険労務士や弁護士など専門家によって相談を受けています。日常的にも電話による相談が増えています。

障害者権利条約研究会は、障害者権利条約を障害者に役立つものにするためには、どのような内容のもので、どう活用できるかを考え、学習しました。障害者制度改革推進会議のまとめた「骨格提言」を学び、権利条約のあるべき姿を考え、学習の内容を冊子にまとめ発行する予定です。

障害者団体の活動を支援する場所としての事務所・会議室の活用も成果があり、団体間の情報交換の場として役立ち、さまざまな障害者とその家族のための支援活動は着実に成果を上げているものと実感しています。

2 事業の実施に関する事項

(1) 医療・福祉・教育・生活など暮らしに関する相談助言と支援事業

日 時	相談者	相談内容	対応者
2012.04.14.	障害者と家族 1名	年金受給に関して	社労士、実務者
2012.05.12.	障害者と家族 1名	障害年金の受給、	社労士、実務者
2012.06.09	障害者と家族 1名	障害年金受給の問題	社労士、実務者
2012.07.14..	障害者と家族 2名	財産相続問題、国保加入	弁護士、社労士他
2012.08.11.	障害者と家族 1名	介護事業所の問題（以後継続中）	弁護士、実務者
2012.09.08.	障害者と家族 1名	共済年金の受給	社労士、実務者
2012.10.13.	障害者と家族 2名	ヘルパー派遣のこと	社労士、実務者
2012.11.10.	障害者と家族 1名	通院病院の処置、	弁護士、社労士他
2012.12.08.	障害者と家族 1名	介護事業所の問題	実務者、社労士
2013.01.12.	障害者と家族 1名	障害基礎年金の受給問題	社労士、実務者
2013.02.09.	障害者と家族 4名	市住問題、障害年金受給、	弁護士、社労士他
2013.03.09..	障害者と家族 1名	介護授業所の問題	実務者、
電話相談随時	障害者と家族 多数	施設入所、年金受給、生活保護	実務者、社労士

障害者のための相談日として毎月第2土曜日に開催することができました。弁護士、社会福祉労務士、社会福祉士などそれぞれの分野の専門職の対応により相談活動にも成果が上がっています。また、相談内容も年金受給手続きや支給停止、生活保護受給に関してなど多岐にわたっています。事務所の開所日には電話や、メールでの相談があり、内容によってそれぞれ個別に対応しています。

(2) 医療・福祉・教育・生活など暮らしに関する調査・研究と情報提供、及び各種つどい開催事業

A) 障害者に対する医療・介護制度の現状とみえてくる問題について学ぶために学習会を開催しました。私たちの求める制度とはどのようなものか考えあいました。

①2012年7月7日(土)

「障害者に関わる医療制度の現状と課題」 ピブレホール 出席者 30名

講師：JPA（日本患者・疾病団体協議会）事務局長 水谷 幸司氏
政府がすすめてきた効率性の追求や保健所の統廃合が、地域に住む患者、障害者、高齢者、乳幼児が医療を受けにくくしている。医療構造改革は健康機器ともいえる状況をつくっている。ヨーロッパ諸国における医療負担は、無料かあっても少額の負担となっていると比較した。医療機関が余裕をもって患者を受け入れられる体制づくりを行うとともに、患者が安心して暮らせる医療・保険・福祉のネットワークづくりが重要だと話した。

②2012年9月8日(土)

「医療保険制度の現状と問題点 あるべき姿」 あすてっふ KOBE 出席者 36名

講師：全日本民主医療機関連合会会長 藤末 衛氏
政権と中央官僚組織は、社会保障節約を国の財政難対策としてすすめようとしている。アメリカ型の産業・医療・介護をとらえようとしている。病院がなくなるという物理的な医療崩壊、低所得者層の社会的排除、医療人の士気低下と精神的荒廃であると指摘し、人権と非営利を掲げてほしいと話した。

③2012年9月29日(土)

「国民健康保険と後期高齢者医療制度」 あすてっふ KOBE 出席者 27名

講師：兵庫県保険医協会 事務局次長 角屋 洋光氏
国民健康保険は「保険料を出し合ってお互いに助け合う制度」である。高齢者医療費制度は、国がいかにして国家負担を減らす目的で施行した。「財政調整」の仕組みを維持・高齢者自身に保険料を負担させる仕組みを作った。人には病気の際にはいつでも治療、リハビリを受けられる権利がある。これらの措置は無料で、無制限で行わなければならないと話した。

④2012年11月10日(土)

「介護保険制度の現状と課題」 こうべまちづくり会館 出席者 42名

講師：大阪社保協介護保険対策委員 日下部 雅喜氏
介護保険制度は家事や日常生活に支援が必要になったときに、誰もが受けられる制度であるが、現行の制度では介護のニーズの増加で対応できなくなっている。家族の介護のために「介

「護退職」が増えてきていること、特養の入居待ちが増加、寝たきり専用の賃貸住宅もできている現状があるので、障害者運動と連動して老後の安心を作り出す討論と運動がこれから必要であると話した。

- B) 阪神・淡路大震災の被災地として障害者に対する避難の体制がどう整備されたか、どんな課題があるか整理し、今後どのような体制づくりが必要なのかを考えるために「災害と障害のつどい」を開催しました。“ひょうご安全の日推進事業”の助成を受けました。

日 時： 2013年2月2日（土）13：00～16：30

会 場： 神戸市勤労会館 会議室 308号

参加者： 70名

内 容： 災害と障害者支援 ～障害者・高齢者のための支援体制づくりの課題～

▽特別報告 「地域住民の連携が息子を助けた！」

宮城県発達支援ひろがりネット代表 中嶋 廉氏

共働き世帯なので発達障害（自閉症）のある我が子を守るために、地域と関わるのが大事だと考えて、東日本大震災以前から近所の子どもたちのネットワーク、町内会へとつながりをもった。町内会で安否確認行動計画を作り、災害時に高齢者・障害者の避難支援をどうするか訓練を行った。地域住民全体が「共助」の担い手になることを考慮し、要援護者として登録している人だけでなく、「要援護者と思われる人」まで把握し、行動計画の中に盛り込んでいたことが効をなした。

▽特別報告 「要援護者名簿は有効に役立つ？」

宮城県石巻市総務福祉課 課長 久保 智光氏

総務福祉課 主査 高橋 幸氏

東日本大震災の実態と報告した。津波避難地域で民生委員も被災者となって7名が死亡・行方不明となるなど、支援する人自身の安全が守れなかったと話した。避難所での生活が過酷で、自宅へ戻った人もあって要援護者名簿の登載された人の安否確認に苦労したこと。一人ひとりを捜し出して福祉避難所に入所させたことを話され、津波被害の悲惨さ、非常に困難な状況を語り、福祉避難所の重要性を発言された。

▽講 演 「災害と障害者支援 ～要援護者名簿の海事のために今何が必要か～」

神戸大学工学研究科 准教授 大西 一嘉氏

“要援護者名簿”の地域での共有、福祉避難所の指定・整備、支援体制の構築支援と人材育成をめざす神戸市が準備している条例案を紹介した。障害を明らかにしたくないなどの理由で、名簿に登録することを同意しない人や回答をしない人は、地域や行政からみえないが、災害時にはそういう人にこそ支援が必要になるなど問題点を指摘した。

▽「2012年度障害者と災害に関する自治体アンケート」

県内41市町に対して調査書を送付し回答を求めた。（回収 40市町 未回答 1市）

▽「災害と障害者のつどい」開催のまとめとして冊子を発行。講師各氏の講演の内容とともに自治体アンケートの集計、考察を掲載しました。

※ひょうご安全の日推進事業、兵庫県、神戸市、兵庫県社会福祉協議会、神戸市社会福祉協議会、

神戸新聞厚生事業団、読売光と愛の事業団の後援及び助成金をいただき開催しました。

※「災害と障害者のつどい」の開催予告、開催時の様子が新聞に報道されました。

※「災害と障害者のつどい」のまとめとして、冊子を発行しました。特に自治体アンケートの調査まとめは、自治体施策の向上に波紋を呼ぶ結果となり、自治体からも送付の依頼が来ています。

※聴覚に障害をお持ちの方のために要約筆記、手話通訳士を依頼し講演会の聴講ができるよう配慮しました。また、視覚障害の方のために点字によるプログラムを作成しました。

C) 情報提供

- ① ホームページを管理運営し、学習会や集いの予告などを掲載しました。
- ② 研究会など開催に際してニュースを発行し、開催の様子や内容を報告しました。

(3) 障害者団体の援助・支援事業

団体の活動への相互参加や情報交換ができること、また団体の活動拠点として役立っています。また、資機材の利用は円滑であり、共同事務所として順調に運営しています。

4月27日	理事会 総会の準備と打合せ	参加者 9名
5月20日	理事会 役員体制、事業計画についての討議	参加者 11名
6月19日	事業計画について内容の討議	参加者 8名
7月6日	事業内容の打合せと懇親会	参加者 14名
9月7日	連続講座について、災害と障害者のつどい内容検討	参加者 10名
9月21日	ひょうご安全の日のつどいの開催について打ち合わせ	参加者 5名
11月9日	ひょうご安全の日のつどい内容とアンケートについて	参加者 8名
1月18日	安全の日事業のすすめ方、アンケートのまとめについて	参加者 9名
3月17日	2012年度のまとめ、2013年度の計画について打合せ	参加者 5名